

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ジャングルキッズジム		
○保護者評価実施期間	2026年 12月1日		～ 2026年 12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	51	(回答者数) 46
○従業者評価実施期間	2026年 12月1日		～ 2026年 12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所の広さと開放感	運動療育を主に行う事が多いため、広さの確保と子どもが飽きず楽しく療育に取り組めるような広さを生かしたプログラムの構築を職員がチームを組んで定期的に改善して行っている。	療育プログラム全体構成に多様性を持たせれるように、今現在実施している内容を常に見直す事と同時に、新しいプログラムを取り入れていく視点を持つこと。
2	専門性の高い運動療育プログラム	代表が日本DCD学会の理事になり、年間を通して専門性を高める研修計画を作成し実行している。さらに、視覚機能に関する外部の専門家との連携も深めている。	子どもの発達に重要な要素は発達障害の分野に限らず様々な知識が必要となる点を踏まえ、特に食に関する専門的な知識の獲得が出来るように説教的に外部講習などにも参加していく。
3	職員間の情報共有とプログラム作成への参画	毎日のミーティングの時間を重視しており、上位職者だけでなく全職員が、情報共有出来るように仕組み化している。研修に参加出来ない職員もYouTubeの限定公開で確認できるようにしている。	非常勤職員への状況共有だけでなく、そちら側からの意見や疑問点などがもっと積極的に上位職者へ挙げられる仕組み作り。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の促進	ASDなど比較的障害の度合いがハッキリしている保護者の方々に希望が多い傾向を感じるなか、様々な特性のこどもの保護者が交流する際の、事業所側の進行の仕方が重要なポイントになる。	様々な特性のこどもの保護者が交流する際に、それぞれの悩みや相談したいことが合わないや話がかみ合わない事が想定されるので、どのような企画にして参加希望の募集をするのかの事前検討が課題。
2	園との情報共有	子どもが主に時間を過ごす幼稚園や保育園での様子を共有する機会が少ない。	相談員さんを通して個別支援会議を開く機会を増やす取り組みや、送迎時のわずかな時間で必要な事を聞き取れるよう事前にヒアリングしたい情報を簡潔にまとめて置くことも重要。
3	小学校への移行期などでの情報共有	児童発達支援事業として、小学校へ入学する際に情報共有は保護者や相談員さんを通してというのが通例となっている。	卒園していく保護者の方と小学校に上がったからの課題や、児童発達支援を受給していた際の取り組みや、履歴などをしっかりと摺り合わせ、何を小学校へ伝える必要があるのかの密な打ち合わせが必要。